

NEWS SCOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

あなたのメールアドレスが変わるかも？ プロバイダーのドメイン名が「ne.jp」に

10月1日、日本ネットワークインフォメーションセンターは、ドメイン名の組織の属性を表す部分に「NE.JP」を新設すると発表した。これは、従来では「OR.JP」を割り当てていたインターネットサービスプロバイダーを表すものである。また、ドメイン名の組織の名称を表す部分の一意性のルールも解除した。（本誌編集長 中島由弘）

ドメイン名の構造

このルールを理解するために、まずドメイン名の構造について復習しておくことにしよう。日本のドメイン名の構造は図1のようになっている。一番右から、第1レベル、第2レベル、第3レベルと呼んでいて、それぞれ国名、組織の種類、組織の名称を表すようになっている。この3つよりも左側にくる、WWWなどの名称（サブドメイン）は、各組織が任意に決められるようになっているが、第3レベルまでは、日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）に申請して割り当てをしてもらわなければならない。

「NE.JP」が割り当てられる 組織はプロバイダー

新設された第2レベルドメイン名の「NE.JP」が割り当てられるのは、いわゆる「インターネットサービスプロバイダー（ISP）」だ。具体的にはつぎのような業務をする組織となる。

図1:ドメイン名の構成要素

impress.co.jp

第3レベル（組織の名称）

第1レベル
（国名）

第2レベル
（組織の属性）

パソコン通信

会員資格がオープンな草の根BBS

インターネットサービスプロバイダー

Web貸しサービス

メールアドレス貸しサービス、メーリング

リストサービス

サブドメイン貸しサービス

ただし、つぎの組織は「NE.JP」を申請
することができない。

自らのみが主たる情報発信者となる情報
提供サービス

ネットワークサービスの提供を主たる目的
とはしない既存の団体がその団体の会員

向けに提供するネットワークサービス

バーチャルドメインサービス

これまでISPに割り当てられていた「OR.JP」は、「AC.JP（大学、研究所、学術組織）」、「GO.JP（政府関連組織）」、「CO.JP（一般企業）」、「AD.JP（ネットワーク管理組織）」のいずれにも該当しない「その他の組織」という定義だった。このルールを策定した時点ではこの「OR.JP」に該当する組織は、任意団体などを想定しており、これほどまでにISPが増加することを想定していないものだった（もちろん、インターネットの商用利用は始まっていなかった）。しかし、インターネットマガジンの調査では、10月1日現在で営業をしているISPは、すでに500社をはるかに超え、563社にのぼる。このような状況を踏まえ、ISPの第2レベル属性を独立させることによって、組織の属性を明確にしようというのが今回の変更だ。

具体的には、今後は表1のような移行期間を経て、現在の「OR.JP」が「NE.JP」に変更されることになる。1997年3月31日までは、すでに「OR.JP」を使っている第3レベルドメイン名（組織の名称）は「NE.JP」として予約される。つまり、「NE.JP」を使った同名の第3レベルドメイン名を他の組織に取得されることなく、既存の組織が「NE.JP」に移行することが保証される。移行申請は1996年11月6日から、少なくとも1999年3月31日までは受け付けられるとしている。また、移行後、少なくとも1999年3月31日までは、移行前の「OR.JP」ドメイン名を利用し続けることができる。

組織の名称は重複が許される

これまで第3レベルドメイン名（組織の名称を表す部分）は、異なった第2レベル属性（組織の種類）であっても、同じ名称を使うことはできなかった（いわゆる一意性のルール）。たとえば、「IMPRESS.CO.JP」が登録されていると、「IMPRESS.OR.JP」というドメイン名は受け付けられなかった。これは、同一組織が申請しても同様だ。しかし、申請されるドメイン名の増加とともに、重複も多くなり、一意性のルールが解除されることになった。これによって、すでに希望するドメイン名を登録できなかった組織は、変更申請をすることができる（新規および第3レベルドメイン名の変更の申請を1996年11月19日から12月9日までの期間受け付ける）。

ドメイン名にまつわる その他の諸問題

現在、ドメイン名に関してはいくつかの問題が発生しつつある。すでにインターネットマガジンでも報じているように、近年では「ドメイン屋」といわれる組織が登場している。これは、自らが使う予定のないド

メイン名でも、他の組織が必要としそうなものをあらかじめ取得し、そのドメイン名を必要としている組織に有料で販売するという業者だ。とくに著名な商品名、屋号、ブランド名などをドメイン名として「取得」している組織がある。現在では「ルール違反」ということもできないが、今後はこうした問題もクローズアップされると予測される。

また、米国では、本来各国で1組織しかないはずのNIC（ネットワークインフォメーションセンター）まがいの組織も登場していると思う。

いずれにしても、ドメイン名は意味のあるアルファベットの組み合わせによるので、限りある資源であることには違いないのだが、悪い方向に進むとドメイン名のルールは破綻して、IPアドレスをそのまま使ったり、電話番号のような別の「数字」で識別することになるかもしれない（電話番号でも、覚えやすいものは売買の対象になっているとも聞くが...）。いずれにしてもインターネットは、今後ますます社会の基盤として重要な役割を担うことになると思われるので、破綻しないルールづくりはもちろんだが、利用者の意識向上や理解も重要になるだろう。インターネットのフレキシビリティを失わせないためにも。

なお、今回の決定についての正式な文書は、<http://www.nic.ad.jp/>に公開されている。

表1：第2ドメイン名移行のスケジュール

1996年10月1日	正式アナウンス
1996年11月5日	OR.JPでの通信サービスドメイン名の受け付け終了
1996年11月6日	既存のOR.JPと同一のNE.JPの第3レベルドメイン名を予約1996年8月1日付の「OR.JPドメイン名の割り当て制限について」を撤廃 NE.JPドメイン名の新規受け付け開始 OR.JPからNE.JPへのドメイン名の移行受け付け開始
1997年4月1日	NE.JPの第3レベルの予約を解除
1999年3月31日	OR.JPからNE.JPへの移行の申請受け付けを保証する期限 OR.JPとNE.JPの併用を保証する期限

表2：第3ドメイン名の申請スケジュール

1996年10月1日	公式アナウンス
1996年11月19日	一意性制限に抵触する新規・変更のドメイン名申請の受け付け開始
1996年12月9日	申請受け付け締め切り
1996年12月10日	一意性制限解除
1997年3月31日	同一ドメイン名への競合申請の協議期限
1997年9月30日	歴史的理由によるドメイン名の予約の解除

Network NTTのOCN 早ければ年内にもサービスを開始

NTTは10月9日、新しいコンピューター専用通信網であるOCNのサービス内容や料金を発表し、年内にも一部サービスを開始したい意向を明確にした。

OCNには一般ユーザーのためのダイヤルアップ型と、企業などのための専用線サービスがある。一般向けは1か月15時間までの利用が月額2,300円、企業向けは128Kのタイプが月額37,000円で、12月より一部地域でサービスを開始して98年度末までに全国に拡大する。

一般向けのダイヤルアップ型は、OCNへのアクセスポイントを全国567か所に設置して、全国どこからでも3分10円で接続できるようにする。このサービスではNTTがメールアドレスの付与などのプロバイダー業務も代行し、既存のプロバイダーと全面

的に競合する。企業向けには、128K、1.5M、6Mの3種類が用意され、いずれも月額固定料金制。予定されている料金は、128Kが月額37,000円程度、1.5Mが月額35万円程度、6Mは98万円程度で、従来の専用線に比べて数分の1の低価格になる。

既存のプロバイダーにとっては死活問題にもつながりかねないが、NTTでは回線の部分貸し（アンバンドル）にも応じるため、プロバイダーもOCNを利用して特徴あるサービスの提供することができる。いずれにせよ、OCNの登場によって通信コストの低廉化が一気に進み、プロバイダー間の競争も一段と厳しくなることはまちがいない。

URL http://www.nttinfo.ntt.jp/dlij/JOINT_J/jointh_J.html

Provider CATV利用の プロバイダーサービス 武蔵野三鷹で開始

武蔵野三鷹ケーブルテレビは、CATV網を利用したインターネット接続サービスを10月から開始した。国内初のサービスで、CATV網を利用するため電話料金が不要となるのが特徴。28.8Kbpsの個人向けダイヤルアップIP接続と、10Mbpsの企業向けLAN型IP接続の2種類があり、来年4月からは10Mbpsの個人向けLAN型IPアサインサービスも開始する。加入金が5,000円、標準工事費が25,000円で、月額最低料金はダイヤルアップ型で4時間まで1,860円、10時間まで3,300円、20時間まで5,700円の3種類があり、超過料金は1分8円。企業向けは月額255,000円。

問い合わせ 武蔵野三鷹ケーブルテレビ(株)
TEL0422-76-2201
TEL0120-508-451

URL <http://www.mmcatv.co.jp/>

Provider ASAHIネットがISDN 同期64Kbps対応の アクセスポイント拡充

ASAHIネットは、ISDN同期64Kbpsに対応したアクセスポイントを新たに9か所で増設し、これまでの分と合わせて全国47か所とした。新たに対応したのは盛岡、川口・朝霞、所沢、草加・越谷、船橋、横須賀・葉山、浜松、京都、高槻。同ネットでは10月からNSPIX2と100Mbpsで接続するなどバックボーンの拡充を図っており、こうした基盤整備により全国でISDN同期64Kbpsに対応できる体制となった。これに合わせ、同ネットのホームページでは、ターミナルアダプターの抽選キャンペーンや、特別割引セールなどを展開する予定。

問い合わせ (株)アトソンASAHIネット事務局
TEL03-3666-2811

URL <http://www.asahi-net.or.jp/>

Network PHSで14.4Kbps通信 DDIポケットが 12月から開始

DDIポケット電話グループは、PHSで14.4Kbpsのデータ通信ができるメディア変換機能を12月からサービス開始する予定だ。PHSでのデータ通信は、現在、9600bpsのアナログモデムを使用して行っているが、メディア変換機能では、専用のPHS端末と通信カードあるいは専用PDA端末を使用して基地局とPHS端末の間をデジタルで通信し、基地局でアナログ変換してモデム通信を行う。PHS業界は、各業者やメーカーが来年春を目指して34Kbps通信を実現するPIAFS（PHS Internet Access Forum Standard）規格方式に準拠したシステムや端末を準備している。DDIポケットは今回のサービスを通じて無線データ通信の普及を図る。

問い合わせ DDI東京ポケット電話(株)
TEL0120-773-050

Service マルチメディアの 質問にNTTが専用の フリーダイヤルで対応

NTTは10月1日より、マルチメディアに関する問い合わせ専用のフリーダイヤル番号を新設した。インターネット、ISDN、LANなどの急速な普及に伴って数多く寄せられるようになった顧客からの問い合わせに一元的に対応するため、このほど「マルチメディアビジネスセンター」を全国の支店に設置し、専用のフリーダイヤル番号で受け付ける。NTTでは、窓口を一本化することで、NTTの商品、サービスなども含めた複合的な利用を前提とした問い合わせにも応じることができるようになるという。

問い合わせ マルチメディアビジネスセンター（MBC）
TEL 0120-078554（マルチハココヨ）
受付時間 平日9:00～17:00

Service インターネット経由で 残高照会や口座振込 住友銀行がサービス

住友銀行は、インターネット利用のホームバンキングサービスを来年1月から開始する。残高照会、入金明細照会、同行本支店間の資金移動がインターネット経由のパソコン操作で行えるもので、国内では同行が初めて。同行ではすでにパソコン通信によるホームバンキングサービスを実施しているが、今回はサービス時間を大幅に延長し、残高、入出金明細照会は平日8時から翌朝5時まで、資金移動と土曜が8時から翌朝2時までとした。来秋には年中無休、24時間サービスとする計画。Netscape NavigatorまたはInternet Explorerで利用できる。事前登録が必要で、利用料金は未定だが、パソコン通信でのサービス並み料金（年間1000円）となる見通し。

問い合わせ 住友銀行 TEL0120-2-86086

Business インターネット家電の 普及を目指して 業界団体が発足

インターネットテレビなど簡易インターネット端末の普及を目標とした「イージーインターネット協会」が9月30日に発足した。松下電器産業やシャープ、東芝、NEC、富士通など情報家電メーカーのほか、NTT、リクルート、第一興商、伊藤忠商事、ロイター・ジャパンなど通信インフラ事業者、コンテンツ制作会社も合わせて30社以上が参加しており、会長には京都造形大学メディア美学研究センターの武邑光裕所長が就任した。3年後には役目を終えて解散する予定で、初年度はインターネット家電機器のプロバイダー接続手順の標準化や、ビジネス環境の活性化などに取り組む。

問い合わせ イージーインターネット協会
TEL03-3442-9531

Service 欲しい本の注文は インターネットで！ 紀伊国屋書店がサービス

紀伊国屋書店はインターネット上に仮想書店「KINOKUNIYA BookWeb」を開設し、10月から書籍の注文の受け付けを開始する。国内書籍120万冊、海外書籍180万冊のデータベースは世界最大規模。このシステムの利用料金は年間3000円で、書籍の送料は1回の注文につき480円、洋書には1冊あたり250円が別途加算される。注文した書籍は最短で4日、海外書籍についても最短1週間で納品が可能という。

URL <http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>



検索から注文までできるBook Web

Network 岡山県が進める 情報ハイウェイ構想で 推進団体が発足

岡山県は、「情報ハイウェイ構想」の推進にあたり、岡山県高度情報化実験推進協議会を9月27日に発足させた。岡山情報ハイウェイ構想とは、CATVなどを活用して県内のすべての家庭でインターネットを利用できる環境を整備し、インターネットを生活のコミュニケーション・システムとして活用する「県民イントラネット」を実現しようとするもの。協議会には、NEC、富士通などの企業を含む約260の個人や団体が参加。参加者には、構想実現に向けたモデル実験のテーマを振り分け、12月初めより実験を始める。10月初めの段階で参加者から寄せられた実験テーマは約300あり、実験開始までにテーマを絞り込む。

問い合わせ 岡山県高度情報化実験推進協議会事務局
TEL 086-292-6123
URL <http://www.optic.or.jp/oih/>

Business アミューズメントを 提供する新会社 ステーション・ガイア

マルチメディア関連の情報提供会社ガイア・コーポレーションは、住友商事、ダイエー、NTTデータ通信と共同で新会社ステーション・ガイアを設立した。新会社は自らをアミューズメントステーションと位置づけ、10月よりインターネット上でライブ放送やショッピングモールなどの番組を提供する。番組は無料で見ることができるものと有料のものとの構成され、来年1月から課金システムを導入する予定。なお、今後はカラオケ、お見合いなどの番組も放送していく。
URL <http://www.stgaia.com/>



ステーションガイアではライブを放送

Technology 分散する情報を 大型データベースに統合 NTTが検索システム開発

NTTは、インターネット上に分散している情報を自律的に統合できる情報検索システム「Ingrid」を開発した。従来の情報検索では1つのサーバー上に情報を集中させる必要があり、情報量の増加にともないハードウェアへの負担が増大していた。これに対し、新開発したシステムでは、同システムを搭載したサーバーが協調することでインターネット上に仮想統合データベースを構築することができ、検索エンジンなどの超大型検索システムへの拡張が可能となった。今後1年間にわたって公開実験を行い、性能を評価していく予定。

問い合わせ NTT研究開発本部研究開発推進部
TEL03-5359-4220
URL <http://www.ingrid.org/>

Service コニカとNTTが デジタル写真の 新サービスを発表

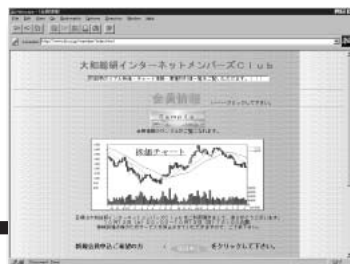
コニカとNTTは、インターネットを利用した新しい画像サービスの事業化を共同で行うと発表した。このサービスは、写真を中心とした画像をデジタル化してデータベースに蓄積し、インターネットを通してコンピュータで閲覧したり、ダウンロードや出力ができるもの。個人の場合、撮影したフィルムを取次店に持ち込むと取次店はデジタル化した画像をサーバーに蓄積する。ユーザーはインターネット上からこの画像をダウンロードして使用する。企業にとっては、大量の写真や画像をデータベースに蓄積することで、いつ、どこからでも、画像の閲覧や出力ができるようになる。コニカは主に画像のデジタル化に関する技術と機材の提供などを行う。一方、NTTはデータベースサーバーやLANなどの構築とサポートなどを行う。

Service 大和総研が10月から リアルタイムの 全株価情報を提供

大和総研は10月1日より、インターネット上においてリアルタイムで株価の提供を開始した。これまでも株価の引け値を無料で提供してきたが、今回から会員制として、リアルタイム株価やチャート情報を提供する。リアル株価が参照できるゴールド会員は端末1台あたり月額3,000円、業種別引け値一覧が提供されるシルバー会員は年間3,000円。

問い合わせ (株)大和総研インターネット事業室
TEL03-5620-5472

URL <http://www.dir.co.jp/member/index.html>



株価をチャート表示

Service インターネットから ポケットベル呼び出し NTTドコモが新サービス

NTTドコモは10月7日より、インターネットメールでポケットベル呼び出しができるシステム「ネクストサービス」を開始した。このサービスに対応する機種は同社の漢字表示可能な「インフォネクスト」シリーズ。このサービスを利用したいインターネットの利用者は、特定のフォーマットに従って作成したメールを「pagercall@page.dokomonet.or.jp」まで送信する。文字数の制限は100バイトまでで、半角で100字、全角なら50字以内。現在試行期間のこのサービスは、3月末までは無料だが、その後の有料化は検討中で未定。

問い合わせ NTT移動通信網
TEL0120-377-360

✉ helpmail@page.docomonet.or.jp
(使い方の自動返信)

✉ question@page.docomonet.or.jp
(質問受け)

Service CD並みの音質で 1曲100円で音楽配信 ニッポン放送が開始

ニッポン放送は、アマチュアミュージシャンの曲専門のデジタル音楽ショップ「デジタル・ウッドストック」をインターネット上にオープンした。CD並みの高音質の音楽を1曲100円で配信するもので、音楽の再生には英国サープレス社の開発した専用ソフトをサープレスジャパンのホームページからダウンロードして使用する。曲は一般から募集され、深夜放送「KYOYAのオールナイトニッポン」で紹介された後、人気の高い曲がアップロードされる。クレジットカード番号をサープレスにFAXやオンラインで登録して購入すると、音楽データがダウンロードできる。

URL <http://www.fujisankei-g.co.jp/jolf/DW/>

URL <http://www.cerberus.co.jp/>

Service ドリームトレインが インターネット利用の 国際FAXサービス開始

プロバイダーサービスのドリーム・トレイン・インターネットは、インターネット通信を利用した国際ファクシミリサービスを開始した。同社のファクシミリセンターへ公衆回線からFAX送信すると、同センターからインターネットを通じて各国のFAXサーバーへ転送され、提携先のFAXプロバイダーから相手国の公衆回線を通じて相手先にFAXが送られるしくみ。国際間はインターネット網を利用するので、通常方法に比べ約50%通信料金を削減できる。利用に当たってはFAX機に「オートダイヤルボックス」の取り付けが必要で、基本料金は月額3,000円となっている。

問い合わせ (株)ドリーム・トレイン・インターネット
TEL03-3505-8305

URL <http://www.dti.ad.jp/>

Service 西濃運輸が 物流情報を開放し 貨物追跡サービス

西濃運輸は、自社の物流VAN「SEINO-VAN」とインターネットを組み合わせた物流・販売情報支援システムを開発した。ホームページとショッピングモールを開発し、一般ユーザーに対しては同社の紹介とショッピングサービスのほか、貨物追跡や運賃見積りサービスなど同社物流情報の一部を利用可能にする。また、専用端末を利用する荷主に対してはインターネット接続サービスを行い、ショッピングモールに参加してもらうほか、荷札発行、発送運賃一覧表、貨物追跡照会、出荷実績報告一覧表などのサービスを実施する。今後は受領印照会、配達予定日照会、配達予定荷物照会、集荷依頼や、請求書情報の受信もできるようにする予定。

問い合わせ (株)セイノー情報サービス
TEL0584-73-8888

Game インターネット上で
資産運用シミュレーション
「KABUTO-CHO」11月開始

ガヴァリ・デジタルエンタテインメントは、アイアイジェイメディアコミュニケーションズと共同で、インターネットを通じた資産運用シミュレーションゲーム「KABUTO-CHO」を開発し、11月から本格運用を開始する。このゲームに参加するにはメンバー登録をする必要があり、メンバーは1億円の初期手持ち資産で取り引きを行う。取引結果は、東京証券取引所から発表される株価などを基準に1日2回更新され、ゲームは1か月を単位として参加者のランキングを集計し、上位入賞者は表彰される。

問い合わせ 株ガヴァリ・デジタルエンタテインメント
TEL03-3476-1616
✉ info@kabuto-cho.co.jp

Product マイクロソフトが
初心者向けインターネット
スターターキットを発売

マイクロソフトはインターネット用ソフトウェアパッケージ「Microsoft Internet Explorer 3.0 Starter Kit」を定価3,500円で発売する。新製品には、同社の最新ブラウザ「Internet Explorer 3.0」の日本語正式版をはじめ、電子メールソフト、翻訳ソフト、マニュアルなどが同梱されている。また、初心者にはわかりにくいプロバイダーの登録についても、プロバイダー14社のアカウント取得の設定を自動的に行える。

問い合わせ マイクロソフト(株)インフォメーションセンター
TEL03-5454-2300



買ったその日からインターネットにアクセスできる

Product RealAudio 3.0
28.8Kbps モデムで
ステレオサウンド実現

米国Progressive Networks社は、インターネット上で28.8Kbps モデムによるステレオサウンド放送を可能とする「RealAudio 3.0」を発表した。この新製品にはオーディオ技術のドルビー研究所との共同開発による新しいコーデック技術が採用されており、28.8Kbpsでのステレオサウンドのほか、ISDNを使用すればCD並みの高音質なサウンド放送が可能となった。これによりレコード会社や放送局などが高品質サウンドをインターネット上で提供できるようになり、すでにSony、Warner、BMG、MCA、NBC、ABC、CBCなどが同製品によるコンテンツの発表を計画している。ベータ版は同社サイトからダウンロードできる。

URL <http://www.realaudio.com/>

Product 液晶デジタルカメラ
「ディマージュV」
ミノルタが年内に発売

ミノルタはパーソナル市場向けのデジタルカメラ「ディマージュV」を開発、年内に発売すると発表した。「ディマージュV」はレンズ部に脱着・回転可能な2.7倍ズームレンズを搭載し、1.8インチ液晶モニター、ストロボを内蔵。また、記憶媒体はスマートメディア(SSFDC)を採用しているため、スマートメディアを入れ替えることで何枚でも撮影が可能。価格は未定。

問い合わせ ミノルタ(株)お客様商品窓口
TEL03-5423-7555(東京) 06-271-2641(大阪)
URL <http://www.minolta.com/>



着脱可能レンズでアングルが自由自在

Product インターネットから
カラオケ、ゲームまで
「Mediabox」でOK

タイトー、京セラマルチメディアコーポレーションは、テレビと電話に接続するだけで、インターネット、オンラインショッピング、電子メール、カラオケ、情報、ゲームが手軽に楽しめるマルチメディア端末「Mediabox」を39,800円で10月16日より発売する。インターネット接続は12月、オンラインショッピングは来春からサービスを開始する。

問い合わせ Xデータネットお客様相談センター
TEL0120-57-0755



プロバイダーとの契約、面倒な設定は一切不要

Product スクリーンセーバーで
文字放送を受信
インプレスが公開

インプレスはインターネット上で文字放送を行う「Internet TELETXT」のスクリーンセーバー版、「Internet TELESaver」を10月11日公開した。毎日新聞社の電光掲示板ニュースなど8本の日本語番組をスクリーンセーバー上に表示する。通常のスクリーンセーバーと違って、マウスを使った操作が可能。現在公開されているのはWindows 3.1/95/NT版で、下記URLから無料でダウンロードできる。

URL <http://www.impress.co.jp/teletext/saver/>



スクリーンセーバーに次々とニュースを表示

Service お年玉付き 電子年賀状サービス 博報堂電腦体が提供

博報堂は11月末から、電子メールによるお年玉くじ付き電子年賀状の配信システムをスタートさせる。博報堂が募ったスポンサー企業の商品がお年玉となり、インターネットの利用者なら誰でも無料で利用できる。ユーザーは博報堂が用意するホームページ(URL未定)にアクセスして、年賀状を送信する際に希望商品を選び、アンケートに答える。年内に受取人のもとへ年賀状を預かっている旨の通知メールが博報堂より配信される。年が明けて年賀状が配信され、その後抽選で当選者を決定する。お年玉は送り主と受取人の両人に発送される。スポンサーにとっては、自社製品の宣伝ができるほか、自社商品を希望したユーザーのアンケート結果などを入手できるので、マーケティングに活用することができる。

問い合わせ ㈱博報堂 博報堂電腦体
den-no@hakuodo.co.jp

Service KBS 瀬戸内海放送が インターネット上に 仮想放送局を開局

KBS瀬戸内海放送はグループ3社と共同で、インターネット上にバーチャル放送局「テレラジオせとないかい」を開局する。これは同社のマルチメディア実験プロジェクトの一環で、テレビとラジオとインターネットを融合させたホームページを提供する。同社では開局にあたり、デジタルアーティストやインターネットジャーナリストを一般募集してコンテンツを制作する。

URL <http://www.setonaikai.com/>



VDO Liveを使った番組もある

Service 「猛烈アジア太郎」 VDO Liveを使って 同時放送を開始

フジテレビで現在放送中のテレビ番組「猛烈アジア太郎」が、インターネットを通して全世界に同時放送される。「猛烈アジア太郎」は10分間の番組だが、テレビ放送中の10分間にアクセスすると、番組の冒頭から当日放送分をすべて見ることができる。また、そのほかの時間には月替わりで番組情報が放送される。これらの技術面でのバックアップは、同番組のスポンサーでもある日本IBMが行う。

URL <http://www.fiesta.or.jp/>

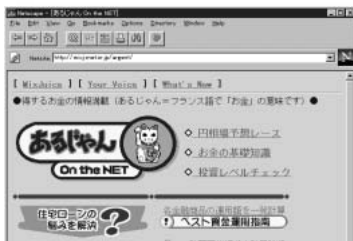


猛烈アジア太郎

Service 金融情報誌の ホームページ リクルートが開設

リクルートは、金融情報誌『あるじゃん』のホームページ「あるじゃんOn the NET」を開設した。余裕資金の条件に適した金融商品を紹介する「ベスト資金運用指南」や、住宅ローンのシミュレーションを行う「住宅ローンレンジャー」「住宅ローン繰上げ太郎」などのメニューのほか、現実の円相場を毎週予想するオンラインゲームも開催する。

URL <http://mixj.rnet.or.jp/argent/>



ゲーム感覚で金融情報をキャッチ

Service 富山県産業情報センター テレビの県内ニュースを ホームページで提供

富山県産業情報センターは、ホームページ「トヤマビジネスパーク」上で、富山県内のニュースを音声と静止画で提供する「Daily TV news」のサービスを始めた。富山テレビが毎日午後6時から放送する「スーパータイム富山」より当日のニュース5本を選んで、アナウンサーの声と静止画4点をデジタル化し、翌日ホームページ上で提供する。

URL <http://www.toyama-smenet.or.jp/tv/>



富山県外にいても県内ニュースが見られる

Business ハイパーシステムが ユーザーのパソコンに 企業広告を自動保存

ハイパーネットは、同社が提供する広告告知システム「ハイパーシステム」に、新たな機能を追加して10月中にサービスを開始する。新サービス「メッセージ保存機能」は、ホットカフェ上に表示されたメッセージを、自動的にユーザーのパソコン上に保存する機能。保存する量、期間はユーザーのハードディスクに影響しない範囲に設定されている。同社と契約しているプロバイダーには広告収入の一部が支払われているため、広告効果のアップがプロバイダーの広告収入の増加につながり、ユーザーがプロバイダーに支払う接続料金が軽減されるという。なお、同社では6月よりアスキーインターネット・フリーウェイをプロバイダーとしてサービスを開始しているが、11月1日よりインターキューとも接続する。

Yahoo!はCNNを目指しているわけではない 米Yahoo!代表ジェリー・ヤン氏に聞く

インターネットの検索サービスYahoo!の創業者の1人ジェリー・ヤン氏(27歳)が来日した。さまざまな企業と提携してサービスを拡充しているYahoo!の現状について、10月1日、ソフトバンク社でインタビューした内容を紹介する。(編集部)



編: 1日に登録してくださいという電子メールは何件くらいきますか?

J.Y.: 1日に約3000件の登録依頼がきます。全部見ることはできませんが、まだできていないサイトとかを除いて1日に約2000件のサイトを追加しています。



編: インターネットのサイトの激増にその登録作業は追いつきますか?

J.Y.: 数はあまり気にしていません。サイトの評価と分類に力を入れています。大量に検索結果が出すぎてどれを選んでいいかわからないというのでは、検索できていないに等しいでしょう。



編: 音声や画像などのマルチメディア検索への対応はどの辺りまで進んでいますか?

J.Y.: イメージデータの検索については「イメージサーファ」いうサービスを別の企業と提携してすでに提供しています。音声やビデオクリップなどさまざまなものを検索するマルチメディア検索の課題は大きく2つあって、1つは技術面です。ファイルの拡張子を探し出すより、もっと適切な方法があるはずですが、技術面ではYahooが開発するのではなく、どこか適切なパートナーを探してほしいと思う検索技術が出てくれば、そこと組んで提供することになります。もう一つはコンテンツ面での課題です。音楽や画像にはクリエイターの著作権処理を各サイトで行っていますから、

Yahoo!で検索してそのまま音楽を再生することは著作権に抵触するかもしれません。マルチメディア検索はこの2つの面を両方検討して解決していかなければならないでしょう。でも、どちらもそんなに時間がかかる問題ではないという気もしています。



編: 他社の検索サービスと比べてYahoo!が最も力を入れている点はどこですか?

J.Y.: Yahoo!の登録数が今40万サイトですが、これらすべてのデータを人が関わって分類して管理しています。情報を探しやすいようにできるということです。それからサイトの数、網羅性という点では、アルタビスタと提携してクリアしました。Yahoo!で見つからなかったものを探したいときは、Yahoo!のサイトからアルタビスタの登録データが検索できるようになっています。このコンビネーションで、検索サイトとしてはトップになったと自負しています。検索以外ではスポーツ情報、天気、株価情報などのさまざまなニュースサービスを提供しています。さらに事業の展開はYahoo! Japanのような国際展開をしています。



編: 国際展開の第一歩だったYahoo! Japanですが、日本での実績の評価は?

J.Y.: まだ始めて数か月ですが、ついには1か月100万ページビューを超えました。アメリカのYahoo!が100万ページビューに達するのに比べてすごい速いスピードでした。こ

れで日本のインターネットの成長が急速であると実感しました。立ち上げることが最も大変なので、それは乗り越えたという感じです。これからは継続してサービスを広げていって、日本の人の生活にYahoo!が入り込んでいけたらいいと思っています。



編: 最近の新サービスではYahoo! NewYorkといったローカルニュースも始まりました。あれはどんな位置づけなのですか?

J.Y.: ロイターの国際ニュースなどを提供する一方で、Yahoo! NewYorkやYahoo! Los Angelesなどは地域密着型の情報提供です。各地域の新聞社など既存のメディアと提携してニュースを流しています。いろいろなところに散らばっている地域情報を1か所にまとめる意味もあります。



編: メディアとしての方向は情報検索サービスを越えているように思えますが、今後は、たとえばCNN INTERACTIVEなどのニュースサイトがライブになるのでしょうか?

J.Y.: CNNみたいなものを目指しているわけではありません。もっといろいろな方向があっていいと思います。もちろん、インターネット上で広く受け入れられるメディアを目指しているという意味では、CNNを意識する部分もあると言えますが、Yahoo!の場合、インターネットでサービス可能なものが出来たら今のサービスに足していく。つまり、Yahoo!自体がコンテンツを作るのではなく、ユーザーがほしい情報へすぐにたどり着けるようにすることを基本的に、既存の情報をYahoo!のブランドと結びつけたいと考えています。

インターネットエキスポ'96通信

No.12

開催期間：1996年1月1日～1996年12月31日

<http://park.org/>

ネット上でアーティストの作品制作が見られる 「Meet the Network」がDNPパビリオンにオープン

URL <http://park.org/Japan/DNP/pavilionj.html>

観客とアーティストが 一緒に作る展覧会

エキスポのDNPパビリオン(大日本印刷株式会社提供)は9月18日、5名の日本人アーティストによるネット上の展覧会の記者発表を行った。

この展覧会はコーディネーターを務める美術評論家の南條史生氏がコンピュータ以外の分野から選んだ5名のアーティストにネット上で作品を制作して発表してもらおうという試み。観客とアーティストが一緒に

なって作品を作っていく過程がネット上で見られるようになっている。



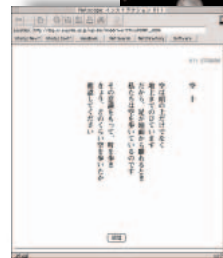
津村耕佑氏が自らファイナルホームを試着して解説しているところ

オノ・ヨーコほか、 著名アーティストが参加

今回参加しているアーティストは、オノ・ヨーコ(アーティスト)、津村耕佑(ファッション・デザイナー)、野村万之丞(演出家・狂言師)、坂茂(建築家)、宮島達男(アーティスト)。

オノ・ヨーコは、新作の詩を1日1編ずつ、100日間にわたってウェブに掲載していく予定。その詩を読んだ人が自分のメッセージをネットワークに返して、それがウェブに掲載されていくという仕組み。オノ・ヨーコと世界の人々のコラボレーションによって企画終了後には壮大な作品が完成することだろう。

また、津村氏は、自らデザインした「ファイナル・ホーム」という全身がポケット



Meet the Networkのページ(上)とオノ・ヨーコによる詩作(下)

で覆われた服を披露。WWWでは、このポケットの中に何をを入れるかを観客に問いかけている。

これ以外にも、魅力的な展覧会が開かれているので、一度のぞいてみては、

Net CamとNavi Camで見るソニーパビリオンのアトラクション

おさかな追尾 NetCam

URL <http://park.org/Japan/Sony/NetCam/index.cgi/>

INTERUPPED PROJECTIONS

URL http://park.org/Japan/Sony/3DWorld/Neil_Denari/

ソニーのパビリオンでは、自動追尾カメラ「Net Cam」とCCDカメラとコンピュータ端末をインターネットで接続した「Navi Cam」という技術を使用しているアトラクションが楽しめる。

「おさかな追尾NetCam」は、東京都江戸川区の葛西臨海水族園にいるマグロを

NetCamで自動追尾して水槽の中を泳いでいる姿をインターネットで観察できるようにしたもの。観察できるのは、毎日午前11時から午後7時まで。見学には、Javaが動くブラウザが必要。

もう1つの「INTERUPPED PROJECTIONS」は、東京都港区にある「ギャラリー



「INTERUPPED PROJECTIONS」のページ

一間」で開催された建築家ニール・デナリの展覧会をWWWで再現したもの。ここを訪れた観客はNavi Camで撮影された画像を見ながら実際にギャラリーの中を歩いているように、VRMLブラウザ「サイバーパッセージ」で仮想空間での展覧会を楽しむことができる。

128KTTH
モニターインタビュー

第4回: Moto's Web Server

MIPS 米田道昭さん

URL <http://tky068.tth.expo96.ad.jp/>

エキスポの専用線モニターの活動報告第4弾はミュージシャン佐野元春のホームページ。このページは、ニフティサーブの佐野元春に関するフォーラムに集まった有志によって運営されている。佐野本人もページ作りに参加しているという本格的なホームページだ。今回は、ウェブマスターの米田さんにホームページ作成の経緯から今後の抱負までじっくりお話を聞かせていただいた。

Q このホームページを始められた経緯を教えてください。

A ニフティ仲間の1人が無謀にも直接、佐野さん本人宛てにホームページを作りたいというメールを出したところ、佐野さんが興味を持ってくれたので、じゃあ作ろうかということになりまして……。最初のホームページは95年3月にできあがり、当時はソニーのサーバーの中にデータを置いていました。その後、佐野さんがエキスポの専用線モニターになったので、今年の6月にホームページをこちらに移動したわけです。

Q ホームページの運営はどのように行われているのですか？

A 現在、MIPS (Motoharu Internet Project System) のメンバーが各自の自宅からダイヤルアップでこのサーバーにアクセスして、ページの更

新をしています。コンサート会場から来場者の感想をFAXで送って、その日のうちにウェブにあげたこともあります。最近では、佐野さん自らページに書き込むこともあるんですよ。

Q 音声データはどのように作られているのですか？

A 音源に関しては、佐野さんの事務所の使用許可をもらってCDからサンプリングしています。通常は著作権の問題があってウェブに載せるのは難しいのですが、この場合は、ご本人が了解しているということでOKになったんです。実際に音声データを編集したりWWWに載せたりするのもスタッフでやっています。

Q 今後このホームページでやってみたいことはどんなことですか？

A コン서트会場でQCAMとノートパソコンと



Moto's Web Server
(上)と米田さん(右)



携帯電話を持って、楽屋やステージで撮った映像をインターネットで流したりというような普段見られない映像を流したいです。あと、オンラインチャットのインタビューもやってみたいですね。

どうもありがとうございました。

ネットワーク上の音のコラボレーション「Brain Opera」開催

(株)NTT DATA 提供

URL <http://www.nexsite.nttdata.jp/brain-opera/>

「Brain Opera」とは、MIT (マサチューセッツ工科大学) メディア研究所が企画した音楽パフォーマンスプロジェクトで、インターネットを通じて送信された音楽をつなぎ合わせてコラボレーションするもの。インターネットから自作の音声ファイルを送信して参加するほか、11月22日~24日に東京・恵比寿ガーデンプレイスで行わ

れるパフォーマンスに参加することもできる。当日は、参加者が作ったメロディーを3人のアーティストが自由に取り込みながら会場で演奏する予定。

応募方法: 氏名(ふりがな明記) 年齢、住所、電話番号、職業、FAX番号、参加希望人数、希望日時を明記のうえ、FAX(03-3584-8444) 官製ハガキ(〒106 東京都港



区麻布郵便局留「Brain Opera in Tokyo 事務局」チケット応募係宛) インターネット (<http://www.nexsite.nttdata.jp/brain-opera/>より申し込み可能) のいずれかで申し込むこと。

応募締め切り: 1996年11月8日必着



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp